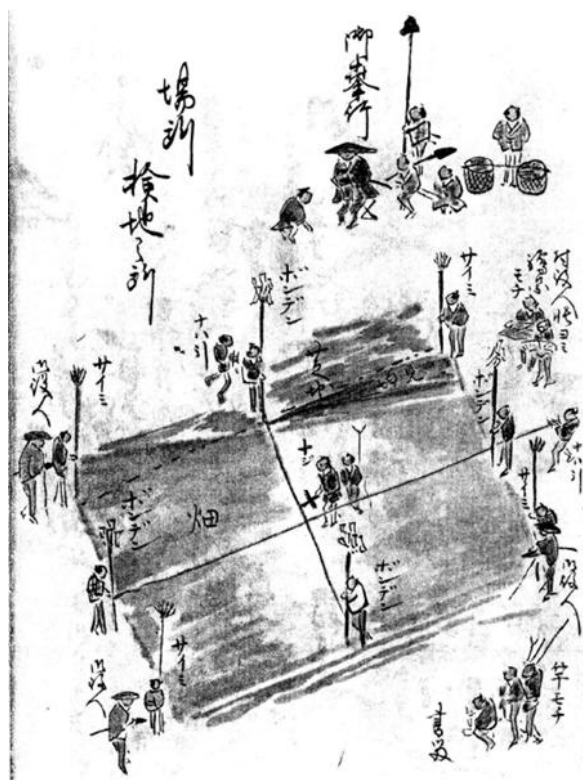


信濃国筑摩郡今井村


寄託文書

[illegible]

悪敷、サイミと云、七八尺程有之竹の先へ、わら

を建、夫より縄を十文字に張、三方にて四方を

文字になり候処へ老人立居、十字を入れる

此十字

如此文字の内、みそをつき、縄の十

四角に見込直す。右十文字真直に入候得ば、四方

長短有之候共、角に成候。畑毎、村役人帳面に記し

置、絵図面共持之、持主も罷出居。夫より御役人太音にて「元歩」と御呼被成るゝ。読み人字何十何番、原畑何畝歩、見付何畝歩。是を上見付ととなえる、かな見付を

と云見付何村何右衛門と讀、それを御書留被成候て、十字の縄の先へ御廻なが

り、縛よ引べに声なをがけさせひつはる。御役人の杖に寸尺を託し置、一長と
呼よば、一長なと答、何十何間、何尺何寸と読。三方の御役人御書留、

「読合す」と答、「其事く」又は「うけたり」等と云。尤村役人も其

通り記し置。御奉行は右縄張の畑畔に床机を直し腰をかけ、御覽被成るゝ。夫より次の畑へおくる。前の如し。はたをへる如くにして始へ

繋ぐ、四方の内芝地等御覽被成。芝地に二品有り。草芝地、木柴地と

云。芝地、柴地如此。昼前一度御休み、其節、右見合反畝に被成候由。

御弁当は松林其外木陰に御休み被成るゝ。此所に火を焚き、茶釜にて

湯をたぎらせ、土瓶数多へ煎茶を入れ、夫々に出す。御弁当終り、御

書留の帳御調べ被成、村役人へ読合せ被仰付。誠に字より畝に直し候

所迄、一口つゞけに御読被成、其早き事いなづまの如くにて御改の反

畝、一ト筆づゝ此方の帳へ記し候が、間に逢不申程。

夫より反別くゝり、古反別に差引、出歩御改被成候由。当村新田、小

又共、廿二日より廿五日昼時迄に濟。右廿二日、御弁当、神戸新田定

の
助
方。